

## 第65期 報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日



## ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は、平成25年3月31日をもちまして、第65期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。

## 当期業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災からの復興需要等を背景として、緩やかな回復傾向にあるものの、海外経済の減速や円高の影響を受け低調な動きでしたが、政権交代を機に経済政策への期待感から景気回復への期待も高まっております。一方、海外では欧州の財政問題や中国などの経済情勢への懸念などから、先行きは不透明な状態が続きました。



代表取締役社長  
英 裕治

## 連結業績ハイライト

		第62期 平成22年3月期	第63期 平成23年3月期	第64期 平成24年3月期	第65期 平成25年3月期
売上高	(百万円)	40,739	36,867	26,696	22,236
営業利益	(百万円)	554	1,003	338	693
経常利益	(百万円)	31	348	19	351
当期純利益	(百万円)	64	△1,303	89	△323
1株当たり当期純利益	(円)	0.22	△4.52	0.31	△1.12
総資産	(百万円)	26,933	21,289	19,637	19,619
純資産	(百万円)	5,805	3,824	3,790	4,243

このような状況の中、当社グループは、オンキヨー株式会社との資本・業務提携により、販売拡大、製品付加価値の向上、製品競争力の強化、新市場の開拓等においてシナジー効果を創出し、安定した業績の実現を目指しています。国内においては、平成24年7月にオンキヨーマーケティングジャパン株式会社と連携を開始し、国内販売チャネルの再編と営業力強化を進めました。また、欧州においては、平成24年11月にオンキヨー株式会社のドイツ子会社であるオンキヨー ヨーロッパ エレクトロニクス GmbHに、販売強化・事業の効率的な運営を目的として、当社の連結販売子会社であるティアック ヨーロッパ GmbH 及び ティアック UK LTD. の一般AV機器（TEACブランド）、高級AV機器（ESOTERICブランド）の音響機器事業を事業譲渡しました。

これらの結果、当社グループは収益性の改善と光ディスクドライブ事業の改革を方針とした事業計画の下、当連結会計年度の連結売上高は222億3千6百万円（前期比16.7%減）と減収となりましたが、米国における光ディスクドライブに関する集団訴訟の訴訟費用の発生があつたにもかかわらず、営業利益は6億9千3百万円（前期比104.9%増）、経常利益は3億5千1百万円（前期比3億3千1百万円増）と増益となりました。一方、米国販売子会社及び欧州販売子会社の繰延税金資産の一部取崩しが発生したため、当期純損失は3億2千3百万円（前期当期純利益8千9百万円）となりました。

以上のような状況をうけまして、当連結会計年度におきましては、今後の事業展開、内部留保の充実を図るため、誠に遺憾ながら、配当を見送らせていただくことといたします。

株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

## 次期の業績見通しについて

音響機器事業は、引き続き次期も順調に推移するものと見込んでおります。オンキヨー株式会社との業務提携の効果及び次期は Gibson Guitar Corp. との提携によるシナジー効果を期待しており、事業の拡大を見込んでまいります。また、当連結会計年度中に実施したインドネシア工場閉鎖などの構造改革の効果が表れ、全体の収益性も改善される見通しであり、平成26年3月期の連結売上高は245億円、営業利益10億円、経常利益6億円、当期純利益3億円を予想しております。

全グループ社員一丸となって次期の業績見通しの達成に向けて邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

## 音響機器事業

### スーパーオーディオ CD プレーヤー インテグレートッドアンプ



ESOTERIC (エンテリック) は創業以来培ってきた高度な記録・再生技術を結集し、より付加価値の高い CD プレーヤーを中心にハイエンドオーディオブランドとして、豊かな趣味性とこだわりを持ったオリジナリティの高い製品を開発し積極的に提案しています。

### ピュアオーディオシステム リファレンス 501 シリーズ



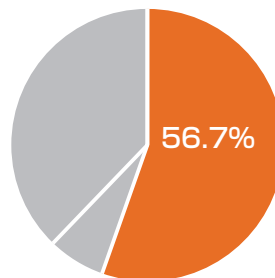
最先端の技術と熟成されたオーディオ回路設計技術が融合することで生まれた USB オーディオ・デュアルモノラル・D/A コンバーターと、最新のオーディオソースに対応する現代のインテリアにマッチした USB 入力対応の低消費電力、高音質プリメインアンプです。

### 放送用途4チャンネル オーディオレコーダー



TASCAM (タスカム) はミュージシャン・スタジオ用製品に使用されているブランド名です。テレビ番組やラジオ番組制作における送出や収録などに対応する放送用途のレコーダーとして、充実した機能を装備し、高耐久性や耐振動性などの高信頼性を確保しています。

売上高構成比



売上高	12,616 百万円
	(前期比 6.4%減)
営業利益	1,091 百万円
	(前期比 9.4%増)

高級 AV 機器 (ESOTERIC ブランド) は、スーパーオーディオ CD プレーヤーの販売が引き続き堅調に推移し、また、期中に投入したクロックジェネレーター、インテグレートッドアンプの新製品に加えて高額輸入品も好調に推移しました。

一般 AV 機器 (TEAC ブランド) は、PC オーディオ関連製品が引き続き日本を中心に好調に推移し、期中に投入した新製品リファレンス 501 シリーズも好評を博し、販売が拡大しました。

音楽制作オーディオ機器 (TASCAM ブランド) は、日本を中心に設備音響機器、放送局向け機器は好調に推移しましたが、下半期は盛り返したものの上半期の景気停滞により米国での販売が減少しました。

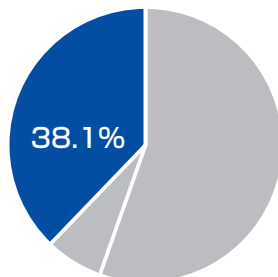
この結果、音響機器事業全体では、欧米での景気の停滞に加え、欧州におけるオンキヨー ヨーロッパ エレクトロニクス GmbH への事業譲渡による商流の変更により前期と比較して減収となりましたが、日本市場での販売拡大に加え、オンキヨー株式会社との業務提携による効果もあり、増益となりました。

## 情報機器事業

売上高 8,470 百万円  
(前期比 30.7%減)

営業損失 △ 431 百万円  
(前期営業損失△ 640 百万円)

売上高構成比



航空機搭載用記録再生機器は安定した販売を維持し、前期とほぼ同様の結果となりました。

計測機器は第4四半期に投入されたデータレコーダーの新製品が好調に販売を伸ばし、前期比45%の増収となりましたが、センサーは半導体製造装置向けロードセルに関して第4四半期に入り復調の兆しが見えたものの、前期比では減収となりました。

医用画像記録機器の販売は堅調に推移し、前期並みとなり、通話録音機器はIT不況の影響を受けながらも堅調に推移しました。ソリューションビジネスも前期並みでの推移となりました。

光ディスクドライブは、収益性の低いPC向け販売を抑制したことに加え、市場の需要減により、大幅な減収となりました。また、米国における集団訴訟に関する費用が予想を大幅に超えたことから業績に大きな影響を与えることとなりました。

この結果、情報機器事業全体では、光ディスクドライブ事業の縮小により、前期と比較して減収となりましたが、赤字幅は縮小しました。

## ワイドバンドデータレコーダー

TEAC



WX-7000

創業以来培い育んできた記録技術をベースにデータレコーダーの発展進化に貢献してきました。航空宇宙、鉄道、電力など大規模な実験計測等において求められる計測時のデータ記録の確実性、信頼性に対応した機能を多く盛り込み、大容量、長時間連続記録を実現しています。

## ネットワーク対応 HDD/SD 静止画・動画レコーダー



MV-3C シリーズ

平成4年以来20年に亘り医療現場で使用する医用画像レコーダーを医療業界に提供しています。ますます高まる医療現場での「記録機能」「再生機能」のニーズを満たすための製品を開発、提供しています。

## ネットワーク対応 通話録音システム



LA-5000

通話記録は、アナログ時代からデジタル時代を経て、圧縮技術、蓄積技術等日々進化しています。当社の通話録音事業は、30余年の長きに亘り展開しており、官公庁を中心に多くのシステム構築に採用されています。

## 連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 平成25年3月31日現在	前期 平成24年3月31日現在
<b>■ 資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	15,001	15,093
現金及び預金	4,422	4,915
受取手形及び売掛金	5,252	4,894
商品及び製品	3,381	3,050
原材料及び貯蔵品	1,262	1,244
前払費用	244	210
繰延税金資産	356	661
その他	180	220
貸倒引当金	△ 98	△ 103
<b>固定資産</b>	4,618	4,543
有形固定資産	2,613	2,721
無形固定資産	426	402
投資その他の資産	1,578	1,419
<b>資産合計</b>	19,619	19,637

	当期 平成25年3月31日現在	前期 平成24年3月31日現在
<b>■ 負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	8,265	8,521
支払手形及び買掛金	1,521	1,988
短期借入金	4,468	4,511
リース債務	30	31
未払金	287	211
未払費用	1,200	842
未払法人税等	45	78
賞与引当金	252	270
製品保証引当金	163	247
返品調整引当金	95	99
事業構造改善引当金	9	53
その他	190	186
<b>固定負債</b>	7,110	7,324
<b>負債合計</b>	15,375	15,846
<b>■ 純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	8,134	8,458
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	306	306
利益剰余金	1,935	2,259
自己株式	△ 107	△ 107
<b>その他の包括利益累計額</b>	△ 3,949	△ 4,667
<b>少数株主持分</b>	58	—
<b>純資産合計</b>	4,243	3,790
<b>負債及び純資産合計</b>	19,619	19,637

### Point 1 連結貸借対照表

＜総資産＞ 固定資産はオンキヨー ヨーロッパ エレクトロニクス GmbH、デジタル・アコースティック（株）の株式取得による投資有価証券の増加があり前期末に比べ1.6%増となりましたが、流動資産は0.6%減、総資産も前期末に比べ0.1%減となりました。

＜純資産＞ 当期純損失の計上による利益剰余金の減少がありました。円安の進行による為替換算調整勘定の増加などにより、前期末に比べ11.9%増、自己資本比率は2.0ポイント改善いたしました。

### Point 2 連結損益計算書

#### ＜当期純利益＞

当期において、米国販売子会社及び欧州販売子会社の繰延税金資産の一部を取崩し、法人税等調整額を計上した等により、当期純損失323百万円を計上いたしました。

### Point 3 連結キャッシュ・フロー計算書

#### ＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

当期における主な内訳は、プラス要因として税金等調整前当期純利益182百万円、マイナス要因としては仕入債務の減少額544百万円、売上債権の増加額146百万円であります。

## 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期	前期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
売上高	22,236	26,696
売上原価	12,772	16,868
売上総利益	9,463	9,828
販売費及び一般管理費	8,770	9,489
営業利益	693	338
営業外収益	131	117
営業外費用	473	436
経常利益	351	19
特別利益	440	29
特別損失	609	25
税金等調整前当期純利益	182	23
法人税、住民税及び事業税	115	58
過年度法人税等	16	14
法人税等調整額	370	△ 139
少数株主損益調整前当期 純利益又は純損失（△）	△ 320	89
少数株主利益	2	—
当期純利益又は純損失（△）	△ 323	89

## 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期	前期
	平成24年4月1日～ 平成25年3月31日	平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 769	485
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 329	△ 809
財務活動による キャッシュ・フロー	264	△ 9
現金及び現金同等物に 係る換算差額	261	△ 79
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△ 572	△ 412
現金及び現金同等物 期首残高	4,181	4,593
現金及び現金同等物 期末残高	3,608	4,181

## 連結株主資本等変動計算書（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その 他有 価証 券 評価 差額 金	為替換 算 調整 勘定	その 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
平成24年4月1日残高	6,000	306	2,259	△ 107	8,458	105	△ 4,773	△ 4,667	—	3,790
当期変動額										
当期純損失（△）			△ 323		△ 323					△ 323
自己株式の取得				△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						△ 55	773	718	58	776
当期変動額合計	—	—	△ 323	△ 0	△ 324	△ 55	773	718	58	452
平成25年3月31日残高	6,000	306	1,935	△ 107	8,134	50	△ 4,000	△ 3,949	58	4,243

貸借対照表 (要約) (平成 25 年 3 月 31 日 現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	10,831	流動負債	10,748
現金及び預金	3,343	支払手形	454
受取手形	112	買掛金	927
売掛金	5,327	短期借入金	8,028
商品	1,792	1年内返済予定の長期借入金	30
原材料	486	リース債務	22
前払費用	157	未払金	258
繰延税金資産	102	未払費用	545
関係会社短期貸付金	223	未払法人税等	31
未収入金	372	前受金	11
その他	1	預り金	67
貸倒引当金	△ 1,089	賞与引当金	179
固定資産	13,273	製品保証引当金	82
有形固定資産	1,812	返品調整引当金	54
無形固定資産	47	事業構造改善引当金	9
投資その他の資産	11,412	その他	45
資産合計	24,104	固定負債	6,867
		負債合計	17,615
		純資産の部	
		株主資本	6,438
		資本金	6,000
		資本剰余金	306
		利益剰余金	239
		自己株式	△ 107
		評価・換算差額等	50
		純資産合計	6,489
		負債及び純資産合計	24,104

損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

	当期 平成 24 年 4 月 1 日～ 平成 25 年 3 月 31 日
売上高	16,595
売上原価	10,114
返品調整引当金繰入額	11
売上総利益	6,469
販売費及び一般管理費	6,307
営業利益	162
営業外収益	876
営業外費用	351
経常利益	687
特別利益	4
特別損失	521
税引前当期純利益	169
法人税、住民税及び事業税	13
法人税等調整額	24
当期純利益	131

株主資本等変動計算書 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等 その他 有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計		
		その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金				
平成 24 年 4 月 1 日 残高	6,000	306	107	△ 107	6,307	105	6,413
当期変動額							
当期純利益			131		131		131
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)						△ 55	△ 55
当期変動額合計	—	—	131	△ 0	131	△ 55	76
平成 25 年 3 月 31 日 残高	6,000	306	239	△ 107	6,438	50	6,489





Gibson Guitar Corp. は、平成 25 年 6 月に社名を Gibson Brands, Inc. に変更いたしました。



写真左： Gibson Guitar Corp. ヘンリー・イー・ジャスキヴィッツ 代表取締役会長 CEO

写真右： 当 社 英 裕 治 代表取締役社長



ティアックはおかげさまで 60 周年を迎えます。



### Gibson Guitar Corp. と資本・業務提携を行いました

平成 25 年 3 月、米国の楽器メーカーである Gibson Guitar Corp. と資本・業務提携を行い、当社は本年 5 月にギブソン・グループの子会社となりました。Gibson Guitar Corp. は、1894 年の創業以来、業務用音響機器やその付属製品のみならず、アコースティック・ギターやエレクトリック・ギターをはじめとする高品質の楽器の製造・販売をしており、製造技術と経験

を集結して作られた楽器等は世界のミュージシャンに高く評価され、ギブソン・グループのブランドは世界中の音楽愛好者に浸透しております。業務提携に加え、ギブソン・グループの子会社になることによって強固な提携関係を構築し、当社の事業基盤とブランド価値の強化及び事業拡大による企業価値の向上を目指してまいります。

### デジタル一眼レフでの動画撮影を高音質に

DSLR (デジタル一眼レフカメラ) での動画撮影時に使用することで、より高音質な動画撮影を可能にするミキサー統合型の 4 トラックリニア PCM レコーダー「DR-60D」を平成 25 年 4 月より発売開始しました。

ご好評頂いている業務用レコーダー、リニア PCM レコーダーの技術を投入し、DSLR 撮影に特化した仕様を数多く装備しており、プロモーションビデオやドラマ収録などの DSLR 撮影用として、高音質で高い利便性を実現しています。

DSLR 用リニア PCM  
レコーダー / ミキサー  
「DR-60D」



### 納得のレコーディングをサポート

堅牢なアルミボディに 2 系統の高品質 HDDA (High Definition Discrete Architecture) マイクプリアンプ、録音環境に合わせた様々な活用法を提供する DSP ミキサーを搭載したオーディオインターフェース「US-366」を平成 25 年 2 月より発売開始しました。ご好評頂いている US シリーズを継承しながら、より高度な音源制作をサポートします。

DSP ミキサー搭載 USB2.0  
オーディオインターフェース  
「US-366」

### TASCAM



## ■ 会社の概要

商号 ティアック株式会社 (TEAC CORPORATION)  
 本社 〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目 47 番地  
 設立 昭和 28 年 (1953 年) 8 月 26 日  
 資本金 60 億円  
 事業年度 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日  
 代表者 代表取締役社長 英 裕治  
 従業員数 単体 343 名 連結 1,224 名

## ● 主なグループ事業内容

### 音響機器事業

高級 AV 機器  
 一般 AV 機器  
 音楽制作オーディオ機器  
 特殊イヤホン機器

### 情報機器事業

航空機搭載用記録再生機器  
 医用画像記録機器  
 計測機器 (トランスデューサー、データレコーダー)  
 通話録音機器  
 ソリューションビジネス  
 介護支援個別ケアシステム  
 ディスクパブリッシング機器  
 コンピューター周辺機器  
 民生用 及び 産業用製品向けドライブ

## ● オリジナルブランド

ティアック、タスカム、エソテリック

## ■ 役員 (平成 25 年 6 月 21 日現在)

代表取締役社長 英 裕治  
 取締役 野村 佳秀  
 取締役 Henry E. Juskiewicz  
 取締役 David Berryman  
 取締役 Solomon Picciotto  
 取締役 大 舘 宗 徳  
 常勤監査役 牧野 信明  
 監査役 原 琢 己  
 監査役 坂 口 洋 二

## 当社ホームページのご案内

当社は、ニュースリリースや決算発表資料などを、自社ホームページに掲載しています。

➔ 投資家向け情報



<http://www.teac.co.jp/>

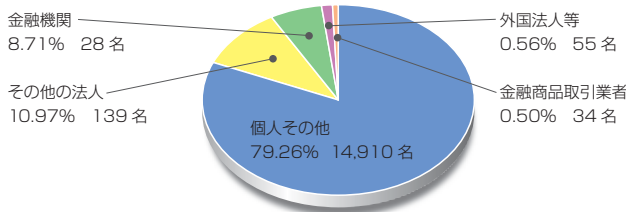
## ■ 株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	289,317,134 株
株主数	15,166 名

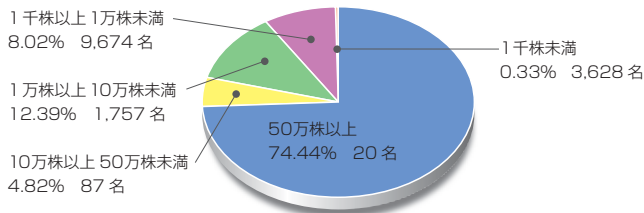
## ■ 大株主（上位 10 名）

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
フェニックス・キャピタル・ パートナーズ・ワン投資事業組合	142,931	49.40
オンキヨー株式会社	28,932	10.00
ジャパン・リカバリー・ファンドⅢ	14,516	5.01
日本証券金融株式会社	9,854	3.40
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,433	1.18
東京海上日動火災保険株式会社	2,007	0.69
明治安田生命保険相互会社	1,541	0.53
ティアック取引先持株会	1,410	0.48
株式会社損害保険ジャパン	1,342	0.46
株式会社相川プレス工業	1,240	0.42

## ■ 株式所有者別状況



## ■ 株式所有数別状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
単元株式数	1,000株
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
公告の方法	電子公告により行う。
公告掲載URL	<a href="http://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku.html">http://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku.html</a> (ただし、やむを得ない事由により、電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞に公告します。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。

## 単元未満株式（1,000株に満たない株式）の買取請求のご案内

単元未満株式（1,000株に満たない株式）については、「単元未満株式の買取請求」により、当社に売却をしていただくことができます。当社は、単元未満株式の買取請求に係る**当社手数料を無料**（注）としておりますので、本制度のご利用をご検討くださいますようお願い申し上げます。

（注）無料となる手数料は当社に係る手数料です。証券会社等において取次手数料等がかかる場合もあります。

- 証券会社等の口座でご所有の株主様  
お取引のある証券会社等にお問合せください。
- 特別口座でご所有の株主様（証券会社等にお取引口座がない株主様）  
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
(TEL 0120-232-711(通話料無料))にお問合せください。

# 60年の歴史が奏でる音。

アナログからデジタルへ、記録媒体は変わっても音楽を愛する心は変わらない。  
より良い音楽体験を全ての人に。

2013



AI-501DA



特別賞 EXTRA PRIZE

USBケーブル1本でパソコンとフルデジタル接続。  
高音質、高性能、低消費電力を達成したD/Aコンバーター内蔵アンプ。

1953



TD-102

- 2010年代 ● 超高解像度デジタルオーディオに対応した「Reference 501シリーズ」発売。
- ユニバーサルVRDSメカ搭載のユニバーサルプレーヤー「ESOTERIC UX-1」発売。
- 2000年代 ● DSD録音が可能なHDDレコーダー「TASCAM DV-RA1000HD」発売。
- VRDSメカを搭載したハイエンドCDプレーヤー「VRDS25」発売。
- 8mmビデオテープを使ったデジタルMTR「TASCAM DA-88」発売。
- 1990年代 ● プレミアム・ミニコンボシリーズ「Referenceシリーズ」発売。
- スリム型3.5インチフロッピーディスクドライブ発売。



DV-RA1000HD



ESOTERIC



DA-88

TASCAM  
TEAC PROFESSIONAL

- 1980年代 ● ハイエンド・オーディオ向けブランドESOTERICを使用開始。
- ハーフハイト5.25インチフロッピーディスクドライブ発売。



C-1

- 1970年代 ● カセットテープデッキの金字塔「C-1」発売。
- 世界初のカセットマルチトラックレコーダー「TASCAM 144」発売。

- 1960年代 ● 業務用オーディオ/ミュージシャン向けオーディオのTASCAMブランドを使用開始。
- 後のコンピューター用磁気記憶装置の原型となるデジタルカセットレコーダー「MT-6」発売。

- 1950年代 ● 世界初のステレオカセットテープレコーダー「A-20」発売。
- 社名を現在のティアック株式会社に変更。
- ティアック初の製品としてステレオテープレコーダー「TD-102」発売。
- ティアックの前身となる東京テレビ音響株式会社を設立。(1953年)



A-20

TEAC  
1953 - 2013  
60th ANNIVERSARY

## ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地

TEL 042-356-9100 (代表)

ホームページアドレス <http://www.teac.co.jp/>

- 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 製品の色は、撮影や印刷の関係で実際の色と異なって見えることがあります。
- 記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

